

発見!

熊野町の「工工」ところ。

シリーズ
第12回

全国各地にある名所や名物、もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工工ところ」を紹介するコーナーです。

今回は「熊野第一小学校の校歌」にまつわるレポートです。

「野口雨情さんって？」～vol.2 熊野第一小学校校歌～



佐々木家への坂道

わが学びやの 南に
群がる山を 抜き出でて
高く雄々しく そびゆるは
名もなつかしく 灰ヶ峰

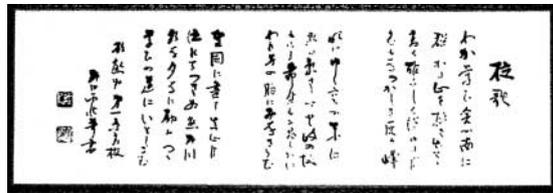
校歌、それは、故郷の風景とともに、当時のあわい思い出をどこかなつかしく心に残してくれる。作詞は「赤い靴」「シャボン玉」「七つの子」などで有名な作詞家、野口雨情。最近ではTVで伝記ドラマが放送されていた野口雨情さん、あらまーどうして熊野第一小学校校歌を作られたのだろうか？母校の校歌の大事さと思議を再発見！

野口雨情は、明治15年に茨城県に生まれ、日本各地を旅行して、その地の民謡や校歌、童謡を創作されている。北原白秋・西条八十とともに童謡界の三大詩人といわれる偉大な作家。北茨城市にある野口雨情記念館には、今も熊野第一小学校校歌が展示してあるそうだ。

さっそく、昭和11年校歌創作当時、野口雨情さんが宿泊されていた

たという、その昔ご本陣であった中溝の佐々木家をお訪ねした。

ちょうどこの季節、酔芙蓉の白い花が咲く坂道を登ると、佐々木家の門がある。佐々木近江さん(81才)は、野口雨情が書いた書を広げながら、当時の様子をお話しくださる。「昭和11年、私は小学生の夏休みだったと思います。偉い



第一小学校校歌 野口雨情 書

方が泊まりに来られるので、おばあさんの家に行つてなさい、と、私と妹はこの家になかったのですよ。けれども、帰ったら広間で大勢の方が、振り付け氏の藤本嬢さんに踊りを習っておられたのを覚えています。「えっ？踊り？」そう、熊野筆まつり唄のね。」

そういえば、熊野第一小学校校歌は、熊野筆まつり唄と同様、作曲家の藤井清水さんと組んで創作されている。このお二人は仲良しだったのかしら？藤井清水さんといえ、隣の焼山町のご出身で、焼山町には藤井清水資料館もある、こちらも有名な作曲家である。

そうそう、聞けば野口さんは、たいそうお酒が大好きで、几帳面。当時は、毎晩町内のみなさまが一生懸命おもてなしをされたという。そんなお酒のおいしい熊野町が大好きになられた(想像・)野口さん。熊野町には、実際野口さんの書を所蔵される方も少なくないそうである。

ふむふむ、どうやら野口雨情さんは、昭和11年8月23日から31日までの熊野町滞在中に、筆まつり唄と第一小学校校歌を作られたようである。



野口雨情記念館 所蔵

筆祭りや運動会でも踊られる筆まつり唄は、実際17番までもあるという。すべてを聞いたことはないけれど、郷土の大切な唄です。これからも大事に継承しなければなりません。気候の良いこの季節校歌を口ずさみながら帰路についていると、ふと、歌に詠まれている灰ヶ峰に登つてみたくなった。

取材 伊藤真由美